

第 2 回連携中枢都市圏ビジョン懇談会議事概要

日時：平成 30 年 1 月 30 日（火）

午後 2 時～3 時 30 分

場所：鳥取市役所本庁舎 6 階全員協議会室

1 開会

2 あいさつ

3 議事

連携中枢都市圏ビジョンについて

（連携中枢都市圏ビジョンの内容について事務局説明）

《委員》婚活について、結婚する同士ではなく両親が話をする企画があってもよいのではないかと、多方面で成果があるようである。

《事務局》事業の参考とする。

《委員》連携中枢都市圏ビジョンを 1 市 5 町がいかに連携して、魅力ある圏域として発信するかが大切。ケーブルテレビで情報発信を担っている中で、ケーブルテレビには連盟組織がある。コンテンツを全社で持ち寄って、海外に向けても発信できる。民間からそのような協力ができれば考えていきたい。

《委員》今後、地域商社、DMO 県境を越えた連携でかかわっていく。

《委員》P57「インバウンド需要に的確に対応する必要がある」の内容について、境港に海外客船が入り、松江・米子方面に分散している。境港の観光客を東部に呼ぶために、客船が入港したとき米子空港―鳥取空港を結ぶ航空路線を実現出来ないか。

《事務局》県西部からの誘客はある。観光地の受け入れ態勢・交通の仕組み等、総合的に検討し誘客を進める検討をする。

米子空港―鳥取空港直通便は、現実として難しい。山陰道が整備されているので、山陰道の整備を強化する。

《委員》パブリックコメントにもあるが人材不足に対しては、所得が伴う必要がある。儲かる取組に連携事業で展開していただきたい。

《事務局》御指摘のとおり、人材が不足している。所得に関しては、P63「特産品生産促進支援事業」、
「農産物販路拡大支援事業」、P60「地域商社」で販路拡大に取り組んでいく。

《委員》ビジョンはこれでよい。「地域商社」の設立により、地元の素材を外に売るパターンが延びていく。移住について、空き家物件の登録を連携していけば移住促進は図られると思う。雇用の場については、ハローワークには載っていない仕事情報があるといい。

《事務局》移住定住で連携をしている。お互いに情報交換することは可能である。事業の中で検討する。

《委員》高齢社会に対する事項が入っていない。現在の社会で、健康寿命の延伸は大きな課題。その件も盛り込んでいただきたい。具体的に、どのような事業があるかはわからないが、目指す社会として、圏域の中で高齢者が元気であれば社会保障の軽減にも繋がる。安心・安全な社会で高齢者が元気に暮らしていれば、仕事を退職した方の移住にも繋がる可能性がある。高齢者が元気で暮らしやすい社会は、若い人も暮らしやすい社会である。

《事務局》P75 には「福祉サービス基盤の整備」等、高齢社会に関連する記載もあるので、この近辺に必要な文言を盛り込む。

《委員》但馬・浜坂などには歴史のある名所が多くあるが観光バスが不足している。市町には、観光PRに強化して取り組んでほしい。漁業の乗組員が減る中、ばばちゃん鍋が有名なのもっと宣伝してほしい。

《事務局》鳥取・但馬間は、ゆめぐりバス運行を事業に入れている。引き続き、強化して取り組む。ばばちゃん鍋は、中之島の麒麟のまちで試食イベントを実施した。今後、集中して売り出す。関西圏ではあるが、新しい取り組みを強化する。

《委員》P66・67の戦略的な観光施策、P89・90の地域公共交通において、1つずつの事業は問題ない。現在、城崎を中心に豊岡市でDMOの運営をやっている。2年経過しているが問題点もある。インバウンドなど観光誘客・施策など1つだけどうまくいかない。今後、連携して取り組みたい。

《委員》DMOとして、4月1日から一般社団法人麒麟のまち観光局がスタートするので、連携・協力をお願いしたい。

《委員》見直し箇所はない。ネットワークにより交通の連携を図れるよう役割を果たしていく。

《委員》P67「因幡・北但西部周遊バス運行支援事業」でバスの企画、浦富海岸ボンネットバス運行を行っている。今後も連携をしていく。

《委員》大阪の商談会で食材をアピールした。参加者・バイヤーを含めて興味のある食材が多いなどの声がある。連携して商品発信をして産業につなげていきたい。

《委員》水産業振興として、青谷町夏泊での定置網が3年目。朝市等、地元組合も活性化している。漁業を学校の授業の中でアピールする場をつくる。鳥取市と岩美町の漁獲量は多い。未利用資源は、まだまだある。資源の発掘・食育・地産地消等の推進をしていきたい。

《委員》ビジョンでは、多岐にわたる事業をしっかりと取り組んでいただいている。農業振興について、耕作放棄地が増加している。連携中枢都市圏の取組で活性化を図っていただきたい。また、市町に住み続けられる観点、農地から離れない観点をビジョンにとりいれてほしい。

《事務局》ビジョンにはないが、それぞれ市町の事業で農地確保に取り組むこととしている。また、市町に住み続けられる観点については、各市町で定住対策に取り組んでいる。御指摘の件は、事業の中で検討していく。

《委員》鳥取県東部には、1市4町7つの商工会がある。起業創業に並行して事業承継がクローズアップされている。事業者数の減少も顕著になっており、事業承継にも取り組んでいきたい。

《委員》パブリックコメントの「工業の振興について」は業界が考えていることが表現されている。製造業の受注も増えている。建設業は、人手不足の状況が続いている。商工会議所においても、本年度「生産性向上特別委員会」を立ち上げ、付加価値・生産性を上げて人材の部分カバーし、新事業の中で人が集う・働く場が増えることをまとめて鳥取県に提言し、本日、鳥取市長にも提言している。産業・雇用がしっかり根付くよう、連携して産業振興に力を入れる。

《委員》観光ルートを点ではなくて線として一つに結ぶと鳥取・但馬が網羅できる。案外、距離も近く、観光でも回れることの意識づけが必要。医療・学校・買い物・就職など鳥取が生活圏であるので、雇用についても行政でしっかりと情報交換をして町民によりわかりやすくしてほしい。

《事務局》但馬定住自立圏では、雇用の面で、高校を卒業する生徒が地元に着するため、但馬圏域で企業説明会のバスの助成に取り組んでいる。一昨年アンケートの結果、山陰近畿の自動車道、東浜道路の開通により新温泉町から鳥取市への通勤が可能になってきている。人口の動態・社会動態の中で転出が減ってきている。十分な通勤圏内であるので、雇用の問題についてお互い連携ができればと考える。

《委員》DMOは1市6町で830万人の観光見込み客数を達成するために組織された法人となる。達成できるよう努めるので協力を願う。

《委員》高齢社会に関する事項が少ないことを懸念している。P80の46番。事業の内容を確認すると、圏域内における病院など事業をしている者の連携として特化されている。個々の住民が高齢化し病状が悪化するような状況である。連携について、医療・介護はできている。介護施設は他の圏域との受け入れはある。介護事業所、医療・介護は事業者において小さな地域では事業が成り立たない。住んでいる高齢者が、安心して暮らしていける地域でなければならない。地域の特性を活かした事例を連携して検証してほしい。シニア移住もあるが、移住定住で大切なのは、移住した方がどうやって移住先を選んだのかをリサーチすること。そして、リサーチしたことをアピールしてほしい。市町が最初に果たすべき役割と思う。

《委員》P80の46番の地域包括ケアシステムは、個別の訪問看護・介護医療はできているが、それぞれの事業者間の連携・ネットワークをすることがこの事業の目的と考える。鳥取市立病院など事業者が連携して検討を行っていくことを考えていると思う。

《事務局》該当箇所に高齢社会に対しての対応を強く盛り込みたい。内容を整理して考える。

《委員》雇用創出・人材不足について。人材不足の中には、ミスマッチの部分も含まれる。年代により価値観・情報を得る手段・発信する手段が違うことを感じる。ビジョンによりあらゆる属性の方に対しPRをしてほしい。

《オブザーバー》P73の37番ドクターカーについて、東部広域は東部圏域1市4町の消防業務を担当している。ドクターカー導入に関しては、消防との連携が必要である。消防現場の体制・理解が大切。美方広域と連携して研究する。P54・66について、鳥取・因幡観光ネットワークの支援事業としてあるが、DMOが設立されて、ネットワーク協議会が本年度末で解散する予定と伺った。「地域連携DMO麒麟のまち観光局への支援事業」などに変更してはどうか。

《オブザーバー》ビジョンの実施にあたっては、DMO・地域商社など新しい組織もでき、既存の組織との連携を考えながらやっていただきたい。県とも連携してビジョンがPDCAサイクルで回るときに、情報修正がスムーズにいくようにしていく。

《オブザーバー》人口の減少問題・高齢化対策などの実現に向けて取り組む中、IT・ITCなどを含めて協力していきたい。

7 その他

《事務局》意見をできる限り、反映する。事業を実施していく中でも参考にする。P1でビジョンの期間は平成30年度から平成34年度までの5年間で、毎年度所要の見直しを実施することとしている。進捗管理を行いながら見直すこととなる。その際は、皆様にお集まりいただき協力をお願いしたい。

8 閉会